

本日ここに活断層研究、並びに関連分野各方面の多くの方々のご参集のもとに、日本活断層学会が新しく発足しましたことは、誠に喜ばしいことです。この出発を祝いたしたいと思います。これまで準備をして来られた多くの皆様のご苦勞に感謝いたします。私が学会立ち上げの話を聞きましたのは、昨年10月末頃ですから、実に足早に進んだようでもあり、一方では結構長かったようにも感じられます。呼びかけ人の中田 高・鈴木康弘さん初め、多くの熱心な皆様のご尽力でここまで進行してまいりました。

思い起こせば、1980年に東京大学出版会から刊行された大冊「日本の活断層」は1970年代後半から、その準備が始まりました。今は亡き貝塚爽平・米倉伸之先生を初め、恩師・吉川虎雄先生、杉村 新先生、藤田和夫先生なども編集幹事に加わっていただきました。特に、松田時彦先生には実質的に指導・誘導していただきました。しかし、この刊行直後から次の改訂版を目指して、資料収集や資料発掘などをしてきましたが、その一環として1984年から雑誌「活断層研究」を刊行することになりました。

このような編集・収集のお陰もあって、「新編 日本の活断層」が1991年に同じ東京大学出版会から出版され、日本の活断層資料の集大成が行われました。この編集のためには、50名にも及ぶ研究者が参画し、1979年頃から開始したトレンチ調査の成果も大幅に取り込まれました。これらの作業や時期を経て、活断層及び関連分野の研究者の組織化が行われてきました。また、1984年からIGCP (International Geological Correlation Programme) Project 206の会議が神戸市で開催され、中国・New Zealand・アメリカ合衆国へと引き続がれ、国際的な交流もこの時期から進行してきました。

1995年兵庫県南部地震が発生した後は、活断層調査・研究の重要性が認識され、98本の主要断層帯が基盤的調査観測の対象活断層として選定されて、詳しい調査研究が地質調査所や交付金を得た地方自治体などで始まりましたが、前に述べた「新編 日本の活断層」がすでに刊行されていた意義は大きいと思います。こうした官民を挙げての約10年間の調査成果も、それまでの全ての成果と共に詳しく検討され、98断層帯の長期評価が地震調査委員会から公表されました。また、これら成果も取り入れた地震動の予測図も整備・刊行されました。

兵庫県南部地震以降も直下型ないし近海地震として、2000年10月(M7.2)鳥取県西部地震、2004年10月(M6.8)新潟県中越地震、2005年3月(M7.0)福岡西方沖地震、2007年3月(M6.9)能登半島地震、2007年7月(M6.8)新潟県中越沖地震などたて続きに発生してきました。これらの多くは地震活動が比較的低い地域、あるいは活動度の低い活断層から大きな地震が起きています。長期評価の対象活断層以外でも、さらに精緻な調査が要求されています。また、十勝沖・宮城沖・紀伊半島沖などのいわゆる「プレート境界断層」付近でもかなり大きな地震が起きています。

まさに大地震の活動期に突入した感が致します。これからの数十年間はまた数多くの大地震が起きる可能性が高いと言えますので、活断層の詳細な調査研究、強振動との関係、十分な地震対策・対応、など諸項目について、さらに調査研究を押し進めて行く必要があります。

活断層調査はまだ第一段階の調査研究が終わっただけであり、活断層から起こる変位量分布、これに伴われる地殻変動量の予測、セグメント区分、グループピング問題など難しい課題が山積しています。陸域では、斜面災害や液状化現象などの地盤災害との関係、交通網・工場・住宅な

どの詳しい被害予測，高層建造物・学校・役所・消防署・病院など，もちろん原子力発電所・大規模ダム，などを含めた重要施設との対応も十分に検証される必要があります。

地震活動期に入った日本列島では、活断層とこれに関連する分野の研究者・技術者・マスコミ関係者などが、調査研究成果を披露し、さらにこれらを押し進め、交流を深めて行くことは重要と考えます。このためには、学会の主目的である研究発表・学会誌の刊行・ニュースレター配信などの基本的な事業を進め、得られた知識を広く共有したいと願っております。それらを基軸にした十分な防災・地震対策・対応なども大変重要です。こうした幹となる事業を推進し、周辺分野の協力を得てゆけば、活断層関連の分野の研究は大樹として成長することでしょう。

日本活断層学会はまだ多くの難題を抱えたままでの出発となっております。今までご努力されて来られた活断層研究者の皆様と連携し、伝統を継承しながら、さらに周辺の各方面・皆様のご協力のもとに、よりよい学会を作って行きたいと思えます。準備当たって来られた方々のご協力を重ねて感謝しますとともに、これからの学会発展に向けて共に歩んで行きたいと存じます。

以上、簡単でございますが、挨拶の言葉と致します。

平成 19 年 9 月 22 日

立命館大学(COE 推進機構)歴史都市防災研究センター  
日本活断層学会 会長 岡田 篤正